

8205 犬が迷いこんできた。餌が欲しくて・・・

犬が迷いこんできた。餌が欲しくて人に媚びてくるので、捨てられたばかりだとわかつた。首輪はつけていたが、痩せて薄汚れた犬だった。

犬猫たちにはそれぞれ縄張りがあり、捨てられたばかりの犬は餌を確保するのが大変なのであろう。昼間は子供たちに石を投げられるので何処かに潜んでいて、夕方になるとでてくるのだった。

立松和平『野良犬、野良猫』

[許容訳例]

A dog strayed into our place. He fawned on people, seeking food, which showed he had just been abandoned. He was wearing a collar, but was skinny and dirty.

Dogs and cats each have their own territories, and for a dog which has just been deserted it is probably hard to get food. In the daytime children threw stones at him, so he hid somewhere. when evening came, he would appear.

[翻訳例]

The dog came wandering in from nowhere. It made up to people in the hope of getting food, which suggested that it had only just lost its owner. It was wearing a collar, but looked thin and dirty.

Since dogs and cats each have their own territories, it must be hard for a newly abandoned dog to get hold of food. This one lay low in the daytime since children threw stones at it, and only came out when it began to get dark.

■犬が迷いこんできた。(8205)

◆了解要請の the と未了解の a(n)

「犬が迷い込んできた」ですが、物語なら「ある日、犬が家に迷い込んできた」のように「時」と「場」が明示されるのが普通です「昔、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました」(Once there lived an old man and his wife.)のように。この場合、はじめて登場する名詞には不定冠詞が付けられます。逆に言うと、「犬」を A dog…で始めると、「時」と「場」が欲しくなるのです。ところが、日本語では、特に隨筆風な書き方では、「時」も「場」も省いて、上のように「犬が迷い込んできた。・・・」と始めることが多々あります。日本語では「了解(要請)情報」と「未了解情報」の区別をあまりはっきり示しません。あまり・・・と書いたのは、まったくしないわけではないからです。たとえば、「あれ? こどもたちは?」とか、「犬は死んでしまいました」とか言った場合、ここで使われている「こどもたち」とか「犬」は了解情報です。しかし、了解・未了解を冠詞で区別する英語では、「時・場」の提示のない「犬」をあらわすには the dog(了解要請)で始めるしかないので。したがって、ここは The dog…と始めると「時・場」がなくても違和感のない英語にすることが出来ます。

★ 「迷い込んでくる」は stray; arrive out of the blue (空から→どこからともなくやってくる) ; turn up without warning (ふいに現れる) ; come wandering from nowhere (どこからともなく) などを使うことができます。ただ、A dog strayed into us にすると into us が問題になります。into us というと、どうしても何か「ぶつかる」という意味になってしまします。The dog ran into me. (走って僕に飛びついた) とか He stumbled into me. (彼はつまづいて私にぶつかった) とかのように、strayed into our garden[home]ならいいのですが。

■ 餌が欲しくて人に媚びてくるので、捨てられたばかりだとわかった。(8205)

★ 「餌が欲しく」は get food とか seek food でしょう。seek for は search for とか look for と同様に、何かを探すという場合に使うことが多いと思われます。

★ 「人に媚びる」辞書で「媚びる」を引くと fawn が出てきます。現代でも使わないことはないのですが、非常に古い感じがする言葉です。たとえば、The courtiers fawned on the king. (宮廷の人たちは王様におべっかを使った) というような特殊な場合しか使えないと思います。また、flatter (おもねる) とか butter up (へつらう) もでていますが、ここでは make up to が一番にいいでしょう。ただ make up は結構使い方が難しく、たとえば、make up a story と言えば「話をでっち上げる」ですし、We made (it) up.と言えば「仲直りした」ですし、make up to…と言えば「～の機嫌をとる・～に媚びる」という意味になります。なお、「人に・・・」は「人なら誰にでも」という感じですから people でいいでしょう。

● 「A して B する」

「餌が欲しくて人に媚びてくる」は「主動詞+句」という定型で処理することが出来ます。すなわち、「主動詞(make up to people)+句(in hope of getting food)」とか「主動詞(make up to people)+句 (コンマ分詞構文) (, seeking food, …)」です。

★ 「捨てられた」は非常に微妙です。英語の場合 desert は、たとえば、He deserted his wife[his friend]. (妻[友]を見捨てた) など、道徳的によくないことという含みがあります。abandon (やむをえず捨てる: He abandoned his child.) は使ってもいいでしょう。ただ、「捨てる」は英語の場合、いずれも意志的行為としてとらえるのに対して、日本語の「捨てられた」は漠然としていて、「どこかに連れて行って捨てた」(意志行為) とは限らないように思われます。したがって、it has lost its owner. ぐらいでいいのではないかと思います。

★ 「ばかり」は(only) just でいいでしょう。

★ 「・・・とわかった」は I realized…とか I found…とかが浮かびますが強すぎるように感じられます。また I saw that…は「目で見て・・・とわかった」という場合にしか使いません。ここは「だから…ではないかと思う」というニュアンスを含んでいるので it suggested that…がよいと思われます。

● [ので]

[ので]は so でもいいのですが、はっきりした理由がある訳ではなく、単なる推察で「…ではないかと思う」というニュアンスが含まれているので、「コンマ+which」で理由を曖昧にする方がいいでしょう。

■首輪はつけていたが、痩せて薄汚れた犬だった。 (8205)

★「首輪はつけていた」は *It[He] was wearing a collar* とか *It[He] had a collar (on)*です。 *It[He] was in collar* は駄目です。 *be in*…は *fashion* の話などをしているときに *She was in a white long dress.* のように使う言い方ですですから、ここで使うのはおかしいです。ついでながら、[He]としましたが、雄か雌かわからないので代名詞は *It* を使った方がいいでしょう。

● [が] は *but* でしょう。 *and* でもよさそうですが、[が] としたのは「首輪を付けている（ので本来なら手入れされてきれいなはずなのだ）が痩せて薄汚れていた」という対立関係が含まれているからです。

★「痩せた」は *skinny; thin* です。 *shabby* は駄目です。これは洋服とか *furnishing* とか、つまり生地を使った物にしか使えないと思います。あるいは、何かひどいこと、*fair* でないことをしたときに *That was shabby.* という風に使うことがあります。

★「薄汚れた」は *dirty* でしょう。辞書には *untidy* も出ていますが、これは駄目です。 *His room is rather untidy, I'm afraid.* と言えば「散らかっている」ですし、*He is very tidy in his dress.* と言えば「身なりがきちんとしている」ですから。

● [て] (痩せて薄汚れていた)

この [て] は並置ですから *and* です。

■犬猫たちにはそれぞれ縄張りがあり、捨てられたばかりの犬は餌を確保するのが大変なのであろう。 (8205)

◆each (それぞれ)

★「犬猫たちにはそれぞれ・・・」のところは *dogs and cats each* と無冠詞複数がいいと思われます。ただ、これは「犬族も猫族もそれぞれ」という意味にもなり、日本語の「個々の犬も個々の猫もそれぞれ」という趣旨に反するようにも感じられます。ところが、その趣旨に合わせて *each dog and each cat* とすると、受ける代名詞が問題になります、*dog* や *cat* には雌雄という性の区別がありますが、*each*~は正用法では *he[his; him]* で受けなければなりません。しかし、それでは雄 [男] だけを表すことになってしまふとして *they[their; them]* を使う人も出てきました。また、人によっては正確を期して *he or she* を使う人が現れ、最近のように性差がやかましくなって、多用されるようになって来ています。しかも *Each dog and each cat* を使うと、修飾する名詞が連続している場合の例になり、これは単数扱いです。述語動詞は単数扱いで、受ける代名詞が *his or her* か *their* と、非常にやっかいです。

★「縄張りがある」は *have one's territory* ですが、*Dog and cats each* なら *have their (own) territory[territories]* であり、*Each dog and each cat* なら *has their[his or her] (own) territory [territories]* となります。なお、*territories* の代わりに引用符で囲って“share of influence”とすると、ユーモラスな感じで面白いと思います。

●隠れ連体修飾節 (捨てられたばかりの犬)

「捨てられたばかりの犬」の「の」は「である」の言い換え短縮ですから「連体修飾節

(捨てられたばかりの) + 不定代名詞的体言 (犬)」ですから、英語では「名詞(a dog) + 関係詞節(which has just been deserted)」で表すことができますが、受動態ですから「過去分詞 + 名詞」で言い換えることもできます。たとえば、a newly abandoned dog のように。

◆定冠詞の用法

関係代名詞節を使うと、限定されたと誤解して先行詞に定冠詞を付ける人がいますが、先行詞に定冠詞を付けると、たとえば、For the mother who is not married there are many difficult social problems と言うと the mother who is not married[the unmarried mother]という一つのカテゴリーを作つて、一つの社会問題として意識することになります。ここでは「捨てられたばかりの犬」というカテゴリーを作る意識はないので the dog ではなく a dog です。

★「餌を確保する」は get hold of food とか get[secure] food です。なお、food を his food などと所有格を加えると、「自分好みの」というニュアンスが加わります。所有格は不要です。

★「大変なのであろう」ですが「なの」の中に筆者の主觀が濃く出ているように思われる所以 may be hard ではなく、must be hard[a hard job]か、あるいは is probably…の方がいいと思います。

■昼間は子供たちに石を投げられるので何処かに潜んでいて、夕方になるとでてくるのだった。 (8205)

★「昼間は子供たちに石を投げられるので何処かに潜んでいて・・・」の主語は「迷い込んでいた犬」(the[a] dog)で、it で受けてきたのですが、すぐ前の文（犬猫には・・・）が一般論なので、それと区別するために This one とした方がいいと思われます。

★「昼間は」は in the daytime とか during the daytime; by day などでしょう。

★「子供たちに石を投げられる」は「子供たちが石を投げる」(Children threw stones at it.)として変換します。これは、たとえば、「ジョージ叔父さんに時計をもらった」を Uncle George gave me a watch. とするのと同じで、英語では通常受動態にしない日本文の一つです。

● [ので]

[ので] は…, so…でも一応、英語として完全になり、かつ、日本語の情報順に変換することになるのですが、日本文をよく考えてみると、ここは「昼は・・・していて、夕方になると・・・する」という二つのことを言おうとしているのであって、「子供たちに石を投げられる」というのは、挿入的と思われます。つまり、「潜んでいる」理由を「(こういう場合よくあるように) 子供たちに石を投げられるので」と添えたいので、…since children threw stones at it と加えることにします。

★「何処かに」は somewhere でしょう。

★「潜む」は「息をこらして」という感じが含まれるので hide (隠れる) ではちょっと物足りない感じです。lie low を使うといいでしょう。

● [(してい) て]

「昼は・・・してい [て], 夕方になると・・・する」の [て] は, and; but; then など, どれでも使えます. ただ and only…とすると「夕方にならないとなかなか出でこない」というニュアンスを含ませることが出来ます.

★「夕方になると」は難しい. when evening came でもいいですが, evening は日本語の「夜」に近い場合が多いと思います. たとえば, What do you do in the evening (after dinner)? という風に, 「暗くなつてから鳴るまでの間」を言います. また, She spent all the evening taking about her latest novel. と言えば「寝るまで (ずっと)」ということになります. ですから, 日本語の「夕方」は夜との境目を言うので, 英語では late afternoon と訳しても when it got dark[dusk] と訳してもいいわけで, ここも when it began to get dark としてもいいでしょう.

★「でてくる」は appear でも come out; show up でもいいでしょう.